

研究所ニュース No.60

# りべらしおん



「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387  
Mail:info@f-jinken.com URL: http://www.f-jinken.com/



紙芝居と朗読で思いを語る京町識字学級のみなさん（京町児童センター）

## 「第十一回筑前竹槍一揆ウォーク in 筑紫」 （筑前竹槍一揆と古都太宰府関連史跡を巡る）を開催 （一〇一三年十月一三日（日）／筑紫野市京町児童センター）

今回で十一回目となる福岡県人権研究所主催の「筑前竹槍一揆ウォーク」が十月十三日（日）に行われ、会場の筑紫野市京町児童センターには、県内外各地から約八〇人の参加者が集つた。

開会行事では、主催者を代表して研究所の松尾祐作所長が、地元からは部落解放同盟筑紫地区協議会の三島美智子委員長が挨拶した。

講座Iを石瀧豊美さん（福岡県人権研究所理事・イシタキ人権学研究所所長）が、「明治六年筑前竹槍一揆」の部落を襲つた「一揆」と題して講話。筑紫地区協議会南支部の大塚支部長がコースの説明をしたあと、参加者はABC三班に分かれてファイールドワークに出発。A班は大塚支部長、B班は南児童館の松永指導員、C班は太宰府市同研の藤原事務局長が案内を担当した。

「一八七三（明治六）年、竹槍一揆の時、この地区では、一揆勢の噂を聞いた村人が、若者たちを山に隠した。残った村人が一揆勢に『自分たちのところは若いもんはおらんし、こげな貧乏部落やから一揆には参加できない』と告げたことから、村が焼き討ちされること



部落解放同盟筑紫地協京町支部  
(2013/3月)発行

○「京町識字学級五〇年の歩み」の報告もしつかり胸に心に刻まれました。素晴らしいかったです。

○手作りのおまんじゅうも美味しく、あたたかいおもてなし、ありがとうございました。

○太宰府の被差別部落の中に、いろいろな歴史が刻まれていることがよくわかりました。

○筑前竹槍一揆の通過点をたどって、太宰府の歴史、道真公とのゆかりなど、とてもよく学習させていただきました。京町支部の報告、識字学級の紙芝居、感動しました。

○こんなに密集して史跡があることに驚きました。自分が住んでいる土地、働いている土地についてもう一度歴史と照らし合わせて学んでいきたいと思います。

○失対の仕事で字を知らないことをごまかして辛い苦しい生活から識字で字を取り戻し、同時に人間を取り戻していく紙芝居！すごい人たちですね。



京町識字五十周年記念誌『かいちみろうか』より

### 人権資料・展示全国ネットワーク

第一八回総会に参加

九月二六日～二七日（滋賀県）

人権資料・展示全国ネットワークは、人権に関する博物館や資料館、人権センター、研究所が情報交換などをを行うため、一九九六年に発足した全国組織で、福岡県人権研究所も加盟しています。

二〇一三年総会が、九月二六・二七日に滋賀県栗東市で開催され、研究所からも参加しました。

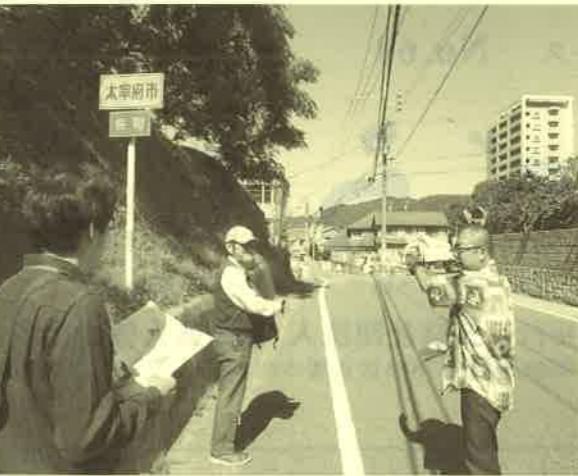
一日目の総会行事は、「こんぜの里」（栗東市）で行われ、全国から一八団体二五名が出ました。

その後、佐藤弘明さんの一人芝居“しまひき鬼”と人権トーク”が披露されました。

二日目は、滋賀県内を「米原」「甲賀」「近江八幡」「草津」と四ヶ所の地域に分かれて、フィールドワークを行いました。

この地域には、竹槍一揆だけでなく、菅原道真に関する歴史が点在する。九〇一年に道真が筑紫に逃れたとき、隈磨と紅姫といふ二人の幼子を同伴している。紅姫の供養塔や病死した隈磨の墓（写真中段）、道真の世話をしたといわれる老婆の祠、道真が雨露をしのいだと伝えられる社など、道真関連の史跡も見学した。

また、奈良・平安時代にあつたといわれる般若寺院の塔の心礎（しんそ）が、小高い道路の脇に置かれていた。直径一八〇センチ、



説明する大塚支部長(右)

厚さ八〇センチの花崗岩で、中央部には、心柱を建てるための直径七三センチ、深さ一五センチの円形ホゾ穴がくつきりと掘りこまれていた。（写真下段）

フィールドワーク終了後、「京町識字五〇年のあゆみ」と題して講座Ⅱが行われた。京町の識字学級生たちによる紙芝居と朗読を通じて、読み書きに不自由して味わった辛さや、識字学級で文字を学んだ時の喜びなどを一人ひとりが語ってくれた。（写真一頁）。続いて、長いまとめの言葉を福岡県人権研究所の谷口研二事務長が述べて行事は終了した。



隈磨奥津城（隈磨の墓）



般若寺の塔に使われた心礎



ソウルグローバルセンター／外国語別の相談窓口

多文化家族支援センター  
／参加者の質問に答えるセンタースタッフ

水原華城を見学

次に、多文化家族支援センターに向かった。センターは慶熙大学の建物内に措置されていた。  
4名の方達は、先生である(写真中段)。内側2人が韓国人、外側2人が日本人。韓国人教師が話

【実地研修1日目】  
8月29日（木）10時20分福岡発のKE788便。メンバーは、事務局合わせて総勢28名であった。ソウルは、第1回海外スタディツアーや来、2度目である。

①1991年は海外投資企業を対象とする「産業ソウルに着き、昼食は純豆腐チゲを摂り、一つ目の訪問地のソウルグローバルセンター（外国人生活支援センター）に向かった。現代的なビル内にソウルグローバルセンターはあった。

【実地研修2日目】  
8月30日は、ソウル市より南に位置する安養市に向かった。オモニ（おかあさん）たちがいろ

した内容を日本人教師が通訳するという形式で私たちは説明された。

夕食（カルビ）後、漢江の遊覧船に乗り、一日目の締めくくりを満喫した。

宿泊地は、太平路大通りに面したニュー国際ホテル。太平路大通りの突き当たりには、景福宮があり、さらのその奥には青瓦台（韓国大統領官邸）がくつきりと見える場所であった。

【実地研修3日目】  
8月31日は、観光だった。南大门（崇礼門）、

南山韓屋村、水原華城などを回った。

崇礼門（南大门）は、2008年2月に放火により焼失したが、2013年5月に復元された。

2013年度の（公社）福岡県人権研究所海外スタディツアーアーは、8月29日（木）～31日（土）の韓国ソウルだった。テーマは、韓国における「識字」「女性」。

8月17日の事前研修会では、「韓国における定住外国人の統合政策」という演題で、北九州市立大学の稻月正さんより報告していただき。そのことを概括すると、

一・韓国の状況は、

①1980年中盤以降、外国人の流入が本格化。

②90日を超えて滞在している外国人数は1,106,884人（2009年5月）で住民登録人口の2.2%にある。

③国籍別では、中国国籍者（朝鮮族443,836人含む）が624,994人で56.5%、東南アジアは235,077人で21.2%になる。

④外国人労働者と国際結婚による移民が、2002年の34,710人から2007年7月で104,749人と5年間で3倍以上となっている。

二・政策の推移を見ると、

①1991年は海外投資企業を対象とする「産業

スタディツアーアーは、8月29日（木）～31日（土）の韓国ソウルだった。テーマは、韓国における「識字」「女性」。

8月17日の事前研修会では、「韓国における定住外国人の統合政策」という演題で、北九州市立大学の稻月正さんより報告していただき。そのことを概括すると、

一・韓国の状況は、

①1980年中盤以降、外国人の流入が本格化。

②90日を超えて滞在している外国人数は1,106,884人（2009年5月）で住民登録人口の2.2%にある。

③国籍別では、中国国籍者（朝鮮族443,836人含む）が624,994人で56.5%、東南アジアは235,077人で21.2%になる。

④外国人労働者と国際結婚による移民が、2002年の34,710人から2007年7月で104,749人と5年間で3倍以上となっている。

二・政策の推移を見ると、

①1991年は海外投資企業を対象とする「産業

スタディツアーアー（ソウル）報告

人権スタディツアーアーに参加して

塚本 博和（会員）

## 第一〇回海外人権・ スタディツアーアー（ソウル）報告

技術研修制度。

②1993年「外国人産業技術研修制度」になり中小企業での外国人労働者利用が可能になった。

③1998年に「外国人産業技術研修就業制度」に拡張。（2007年1月廃止）。

④2003年に「雇用許可制」「外国人労働者等に関する法律」（非正規滞在者の合法化措置等）が施行。

⑤2007年「在韓外国人待遇基本法」可決（2007年5月公布）。

⑥2008年「多文化家族支援法」可決（2008年3月公布）。この法律により、「多文化家族支援センター」（当初は「結婚移民者家族支援センター」）が設置された。当初は21ヶ所だったが、2011年時点でも200ヶ所を超えた。

⑦さらに、2011年「多文化家族支援法」が改正された。法的効力の強化、支援対象の拡大（韓国籍者と外籍者の結婚だけではなく、留学生の家族、外国人労働者家族、脱北者家族など）がなされた。

三・多文化家族支援法の思い入れまで言及して、①多文化家族の社会的・経済的自立を視野に入れていること。

②家族（世帯）を単位とした支援であること。

③アットリーチ型、ワンストップ型のサービス提供であること。

④子どもの教育支援、子どもを通した世帯の課題把握（課題の早期発見ネットワーク）として機能する可能性を持つこと。

⑤NPOや民間企業との連携、社会的企業の創出。

⑥生活困窮者に対する「伴走型支援」であること。

四・多文化家族支援センターの役割は、（1）基本事業として、①韓国語教育、②家族統合及び多文化社会理解教育、③家族相談、④多文化家族の就労・起業教育、⑤多文化家族同士の主旨的集まりの支援。

（2）訪問教育事業として、①韓国語教育、②父母教育・子女教育、③相談。

（3）特性化事業として、①バイリンガル教室、②子女言語発達支援事業、③通訳・翻訳サービス、ト記事から、東洋英和女学院大学准教授（韓国社会論）の春木育美さんを紹介している。

その記事は、韓国の外国人政策と題して、韓国の外国人政策は国益中心で、多文化共生よりも同化を強いるなどの問題点を指摘している。

①外国人からの移民を受け入れて永住させるのではなく、短期の単純労働力を確保するのがねらい。

②支援プログラムは「韓国人としての基本素養を備えるための教育」と位置づけられ、生活習慣や伝統、価値規範を「教育」するのが目的、と批判している。

しかし、日本の移民政策や社会統合のあり方を考える上で、韓国の例を反面教師と捉えること、何もしなければ韓国の後塵を拝すかもしれないとの見解も示唆している。

③韓国国家人権委員会を訪問した。第1回のツアーハーも訪問したところだ。

そして、戦争と女性の人権博物館に行つた。博物館の壁いっぱいに激励のメッセージなどが貼付されていた。

開館当初は、館内の写真なども自由に撮影して良かったそうだ。しかし、心ない人たちが、勝手にネット上に掲示したこと、それ以来、撮影禁止にしたそうである。

（2）訪問教育事業として、①韓国語教育、②父母教育・子女教育、③相談。

（3）特性化事業として、①バイリンガル教室、②子女言語発達支援事業、③通訳・翻訳サービス、ト記事から、東洋英和女学院大学准教授（韓国社会論）の春木育美さんを紹介している。

その記事は、韓国の外国人政策と題して、韓国の外国人政策は国益中心で、多文化共生よりも同化を強いるなどの問題点を指摘している。

①外国人からの移民を受け入れて永住させるのではなく、短期の単純労働力を確保するのがねらい。

②支援プログラムは「韓国人としての基本素養を備えるための教育」と位置づけられ、生活習慣や伝統、価値規範を「教育」するのが目的、と批判している。

しかし、日本の移民政策や社会統合のあり方を考える上で、韓国の例を反面教師と捉えること、何もしなければ韓国の後塵を拝すかもしれないとの見解も示唆している。

③韓国国家人権委員会を訪問した。第1回のツアーハーも訪問したところだ。

そして、戦争と女性の人権博物館に行つた。博物館の壁いっぱいに激励のメッセージなどが貼付されていた。

開館当初は、館内の写真なども自由に撮影して良かったそうだ。しかし、心ない人たちが、勝手にネット上に掲示したこと、それ以来、撮影禁止にしたそうである。



## お知らせ

○ 史実と授業・啓発の結合をめざして	▽ 日 時 二〇一三年十一月一日(土)一四時～一七時三〇分
▽ 会 場 A.I.Mビル三階二二・三二二会議室 (交通) JR小倉駅北口から徒歩五分	▽ 内 容 「沖縄特攻作戦と九州の戦争遺構」 加藤陽一さん(福岡県人権研究所理事)
▽ 参加資料代 一二〇〇円(研究所会員一〇〇〇円)	▽ 定例研究会・第二回ジエンダー部会 伊藤野枝没後九〇周年企画「伊藤野枝と代準介」 矢野寛治さん(『伊藤野枝と代準介』著者) 二〇一三年二二月一四日(土)一八時～二〇時
▽ 資料代 五〇〇円	▽ 講 師 ココロンセンター研修室(博多リバインオフィス二〇階)福岡市営地下鉄「中洲川端」駅上
○ 人権啓発担当者のつどい	▽ 会 場 ▽ 日 時 ○ 北九州ふれあいフェスタ二〇一三 伊藤野枝没後九〇周年企画「伊藤野枝と代準介」 矢野寛治さん(『伊藤野枝と代準介』著者) 二〇一四年十一月二四日(日)十時～一七時
○ 人権啓発担当者のつどい	▽ 会 場 西日本総合展示場(JR小倉駅北口徒歩五分) 研究所の出展内容「若松軍艦防波堤物語」パネル展示
▽ 会 場 平沢安政さん(大阪大学教授) 二〇一四年二月二八日(金)一八時三〇分 (交通) JR戸畠駅から徒歩五分	▽ 会 場 平田崇英さん(豊の国宇佐市塾塾頭・教覚寺住職) 「宇佐航空隊遺構保存運動と町おこし」

## 研究/所/日/誌/から (2013.8.18～10.30)

- 8月 18(日) 歴史学習プロジェクトフィールドワーク
- 22(木) 九州地区人権・同和教育夏期講座1日目(～23金／鹿児島)
- 24(土) 糸島市人権・同和教育研究大会(西尾副理事長登壇／糸島市)
- 27(火) 事務局会
- 29(木) 海外人権・スタディツアーワーク(～31土／韓国)
- 9月 01(日) 宗像地区「同和」教育研究集会(書籍販売／福津市)
- 08(日) 歴史学習プロジェクト
- 09(月) 事務局会
- 14(土) 部落史研究部会
- 15(日) 執行理事会
- 19(木) 『リベラシオン』No.151発行
- 21(土) 啓発部会
- 26(木) 人権資料・展示全国ネットワーク総会(～27滋賀県) 第32回松本・井元研究会
- 28(土) 教育部会「平和でない時代の平和教育を考える」(報告：関儀久さん)
- 29(日) 外国人部会「外国人実習生問題」
- 30(月) 事務局会
- 10月 06(日) 福岡市ハートフルフェスタ(福岡市)
- 11(金) 事務局会 部会長・運営委員合同会
- 12(土) 部落史研究部会
- 13(日) 第11回筑前竹槍一揆ウォーク(筑紫地区)
- 14(月) 九州地区部落解放史研究連絡協議会事務局会議(熊本市)
- 18(金) 八幡地区企業同推フィールドワーク(北九州市門司区)
- 19(土) 福岡県人権・同和教育研究大会(田川市／理事長登壇)
- 22(火) 歴史学習プロジェクト
- 24(木) 第1回啓発担当者の集い(福岡市) 第33回松本・井元研究会
- 26(土) 教育部会「市民性(シチズンシップ)を問い合わせ直す」(報告：山田明さん)
- 28(月) 事務局会
- 29(火) 編集委員会 (※住民意識調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育啓発に関する相談業務や研修会等の企画、講師依頼への対応等については省略しています。)